

燧ヶ岳山行記録



目的地	燧ヶ岳	期 日	平成19年8月26日(日)
山行人	笠原正雄・澄子	特 記	2週前に登った平ヶ岳を見に行く。

地 点 名	(着)～(発)		記 事
与 板	午後5:05発		前日に届けを済ませ、妻のNIC終了後出かける。長岡～小出高速。
御池駐車場	7:35発	曇	到着直前に運転しながらオコワで朝食。遮断機を通りPに入る。駐車料1,000円は出庫時に自動支払機で払う。Pは幾分空きがあった。走行125km。
シャトルバス	8:00～8:20	"	時刻も遅いせいか人の混雑は無い。殆んどが中高年、我々もだが夫婦が多い。運転手が時々バスを止めて案内をした。
沼 山 峠	8:20	"	バスを降りてすぐストック無しで歩き出す。登りが混じるが、概ね下りの木道を進む。だんだん雲が取れて来て陽射しを受ける。当初、下山を長英新道と思っていたが、この木道の登り嫌って、この時点で熊沢田代下山に変更を決めた。半袖歩きのため笹が腕に当たる。オヤマリンドウが多い。
長英新道分岐	9:15	晴	手前の長蔵小屋直前で日焼け止めクリームを塗る。
沼尻休憩所	9:45～9:55	"	休憩所の中のベンチで少し食べる。トイレ、協力金200円を箱に入れる。ナデッ窪を進む。数箇所倒木を跨ぐ。途中から背後の尾瀬沼を見る。
休 む	11:05～11:15	"	展望が開けた所で岩に腰を下ろし、お握り1個。前後で下山者と会う。
長英新道合流	11:55	"	ミノブチ山が見えて長英新道と合わせる。この5分前から2本杖歩行。
俎 嶺	12:15～12:20	"	十数人程度。写真を撮り合う程度で先へ進む。鞍部は木道となっていた。
柴 安 嶺	12:40～1:50	"	こちらは俎嶺より人が少ない。西側に進み、ちょうど休憩を終えて歩き出す夫婦と入れ替わりに好位置に座る。尾瀬ヶ原が一望だ。地図で山を見比べる。2週前に行った平ヶ岳頂とそれに続く尾根を目で追う。トマト等を食べながら一杯。山中2泊と言う男が下っていく。ランチを終えると山頂は単独者一人のみとなっていた。彼から写真を撮って貰う。
俎 嶺	2:10	曇	皆下山して行って男女1組が居ただけで、山はすっかり静かになった。
熊 沢 田 代	3:00～3:10	"	先行下山の千葉からという中年夫婦と入れ替わりに木道脇ベンチに入る。振り返ると降りて来た山に雲がかかる。
広 沢 田 代	3:45	"	熊沢田代より広い。通過後ミヤマホツツジを撮影。この後千葉の夫婦を超越すが、俎嶺からの下りでは彼らと出会ったのみだ。
御池駐車場	4:25	"	隣の車の女性も千葉県からだ。前述夫婦とも今日中に帰宅するという。
御池ロッジ入浴	帰り5:05発	"	入浴をするが、シャワーが故障しているからと500円の所を400円だった。温泉湯を湯船から汲んで頭までしっかり洗う。

9年前の9月に齊藤昭英夫婦ほかと5人で前夜御池入りし、駐車場にテントを張って泊まり、同じコースを歩いた。その際には、歩き出しは晴れていたものの山頂で雨となり、鞍部で寒さに震えながら昼食を摂った。登りでは沼を見ることは来たが、尾瀬ヶ原は全く見えなかった。また、下山路は全くの田圃状態のぬかるみ道だった。しかし今回は、幾分その面影は残すものの、木道が設置されて良くなっていた。

今山行の動機となった平ヶ岳を眺めるという目的がお天気に恵まれて果たすことが出来た。また、柴安嶺から眺める尾瀬ヶ原は、他では見ることが出来ないであろういい景色だ。

今年になって、尾瀬が会津駒と合わせて、日光から独立して国立公園となった。そして、新潟県側からの魚沼ルートを盛んに宣伝し始めたが、やはり、銀山平から鷹ノ巣間のクネクネ道が遠く感じる。